

年、能代市民が海岸沿いにクロマツを植え始めた。クロマツの木は、日本海から内陸に向かって吹き出す強くて冷たい風から町を守ることを目的としていた。その結果この林は、約 700 万本が生い茂る、日本最大級のクロマツ林となった。14 キロメートルの海岸線にまたがり、幅は 1 キロメートル、面積は 760 ヘクタールに及ぶ。

現在、林は「風の松原」として知られる都市公園である。多くの木は絶え間なく吹き付ける風で曲がっており、今では海と逆側に傾いている。強風に加え、「風の松原」の木々は、1983 年に沖合 100 キロメートルで発生した日本海中部地震による津波から能代市を守るのにも役立った。波はまず木に打ち当たり、市街地に到達する頃には、波は大幅に弱まっていた。

公園ではクロマツのほか、サトザクラ、ガマズミ、ハマナス、クサノオウ、アキグミなど、300 種類以上の植物や花が見られる。林には、シマノジコ、ジョウビタキ、キビタキ、コマドリなど、美しい声で鳴く鳥がたくさんやって来る。

公園の周りには 3 つの散策コースがあるが、自由に散策することもできる。2 キロメートルのコースは特にジョギング用であり、6 キロメートルのコースはウォーキング、ランニング、サイクリングに使用できる。「健康づくりのみち」と呼ばれる 3.6 キロメートルのコースは、平坦ではない地形を歩くのが難しい人のために設計されており、表面には弾力性のあるウッドチップが敷き詰められている。